広報部会会員による 就業現場リポート（第26回）

区　報　配　布



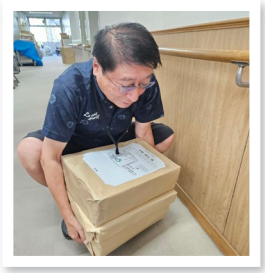
～区報の配布を通じて、地域とのつながりを感じながら～

今回ご紹介するのは、駅や公共施設などへ区報を配布するお仕事です。決められた日に確実に区報を届けるため、一人ひとりが責任を持って取り組んでいます。

今回は、このお仕事で活躍されているお二人にお話を伺いました。

配布物 区報、カルチャーナビ等　　**就業会員** 16名

配布期間 区報：毎月１日、11日、21日　カルチャーナビ：毎月11日



❶ 事務局から運び出し



❷ 自宅へ持ち帰り



❸ 指定日にスタンドへ配布



Q. 仕事を始めたきっかけを教えてください

A.
会員： これまでやっていた公園の仕事が終了になって丁度時間があったので、勧められたこの仕事を始めました。
会員： 就業している方が抜けられて後任を探しているとのことだったので、やってみようと思いました。

Q. 仕事で心がけていることはありますか？

A.
会員： 区報が傷つかないように配布することを心がけています。また、雨だと区報が濡れてしまう可能性があるので、なるべく雨が降りそうな時間帯を避けるなどの工夫をしています。
会員： 私も雨の日は大きなビニール袋を持ってきて、それを被せて、濡らさないように気をつけています。後は、配布日が決まっているので、日にちを絶対に守るということを心がけています。

Q. やりがいや、やっていて良かったと思う事はありますか？

A.
会員： 区報をスタンドに入れている時に、「これ持って行ってもいいですか」と声をかけられることがあります。そういった時に区報を待っている人がいるんだなと感じられることがやりがいです。
会員： 置いていると必ず数が減るので、持って行ってくれる人がいることがやりがいです。また、決められた日に必ず行かないといけないので、健康維持にもつながっていることが良いですね。

Q. 仕事をしていて大変だったことはありますか？

A.
会員： 以前、スタンドの中に缶コーヒーが倒れ、汚れてたことがあり、掃除するのが大変でした。
会員： 駅によっては結構な量があるので、予め部数を数えておくなど、事前準備を行うことが大変です。また、部数が多いと持ち運びが重くなりますので、特に女性の方ですと大変なのではないでしょうか。

何か所も担当し、多くの配布物を持ち帰る大変さや、決められた日時を守ることの大変さを知ることができました。また、これまで何気なく目にしていた駅のスタンドにある広報紙が、見た目よりも重く、雨の日には濡れないよう様々な工夫をしながら運ばれていることを知り、改めてこの仕事の大変さを感じました。駅のスタンドにある広報紙を支える皆さんに、この仕事を永く続けてほしいと思います。